

行財政改革プランの外部視点による評価・検証のあり方について

○内部評価

1. 基本的な考え方

- ア 行財政改革プラン（以下「プラン」という。）の部局別行動計画に掲げる 158 取組の進捗度合いを中心に評価・検証を行う。
- イ 評価・検証を自ら行うことで、プランの目的や達成度を明確にする。

2. 評価・検証の方法

<案 1> 行政評価システムを活用する。

【考え方】プランの取組を構成する改善内容と行政評価での改革改善内容は、第 5 次総合計画や行財政改革を通じてよりよい市政を実現するという共通点があることから、行政評価の細事業 P D C A シートにプランの各取組の成果を記入する。

<案 2> プラン専用のシートを作成し、進捗管理する。

【考え方】行政評価の細事業とプランの取組事項は切り口が異なることから、プラン独自のシートを作成する。

(参考) 内部評価管理シート別比較対照表

管理方法	細事業 P D C A シート（行政評価）	プラン専用のシート
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 度手間解消による原課での負担感減 ・ データの一元管理 ・ 行政評価とプランとの理念の共有化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経年管理が容易 ・ 所属（部局）での管理が容易
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属（部局）での入力複雑化 ・ 経年管理が困難（前年度との対比のみ） ・ 歳入について別途照会が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属によっては 2 度手間になり負担感増 ・ 行政評価との理念の共有が困難

○外部視点による評価・検証の手法(公開ヒアリング)

1. 基本的な考え方

- ア 外部の視点からの意見を今後のプラン推進の参考にする（事業仕分けではない）。
- イ 課題や実施内容、それに対する外部の視点からの意見など、議論の一連の流れを公開することで、市民の市政への理解を深めるとともに、参加意識の醸成を図る。

2. 評価・検証する対象

<案1>プランの取組事項を対象とする。

【考え方】プランの進捗管理に重きを置き、取組事項を対象とする。

<案2>プランの取組事項を基本とし、政策の評価・検証も含めた広い視野からテーマを設定する。

【考え方】プランの取組を構成する改善内容と行政評価での改革改善内容は、第5次総合計画や行財政改革を通じてよりよい市政を実現するという共通点があることから、プランの部局別行動計画の進捗度合いの評価・検証にとどまらず、政策の評価・検証も含めた広い視野からテーマを設定する。

3. 評価・検証する対象の選定方法

<案1>選定基準・要件に、人事課・財政課・政策企画課の意見も聞き行政改革推進本部で決定する。

【選定方法】

人事課・財政課・政策企画課の意見を聞き事務局でいくつかの取組項目を抽出する。

【選定基準】

- ・ 内部評価結果において計画より遅れのあるもの、計画どおりでも更なる改革の効果が期待できるもの。
- ・ 外部の視点から意見を聞く必要のあるもの。

<案2>専門委員による書類評価を経て、更なる聴取が必要な取組を専門委員会で決定する（書類評価＋公開ヒアリング）。

【選定方法】

- (1) 計画より遅れのある取組及び専門委員会が必要と認める取組について評価を行う（書類評価）。なお、専門委員会が必要と認める取組を選定するため、内部評価結果の全取組を専門委員に示すものとする。
- (2) 書類評価を受けた取組を中心に、更なる聴取等が必要な取組を専門委員会で選定し、公開ヒアリングを実施する。

【選定基準】

- ・ 内部評価結果において計画より遅れのあるもの。

- ・ 専門委員会が更なる聴取を必要と認めるもの。

4. 評価・検証の体制

(1) 体制

専門委員及び様々な分野の専門家（企業経営者、経営コンサルタント、総合研究所、青年会議所など）

(2) 定数

4名程度×2班（10～12取組）

5. その他

ヒアリング終了後に傍聴している市民からの意見を聞く場を設けるなどの工夫をする。

○共通事項

1. 評価・検証の実施時期

(1) 市のPDCAサイクルとの関係

行政評価、決算・予算要求のスケジュールにあわせる（内部評価を6月、公開ヒアリングを7～8月に実施）。

(2) 最終年度の評価・検証方法

4年目に最終年度の予定・着地点について調査する。

2. 結果の反映・活用

内部評価・外部評価の結果や社会経済状況の変化を踏まえ、部局において必要な見直しを行い、プランに掲げる目標の達成を目指す。